

件名	沖縄・辺野古の新基地建設中止などを求める意見書の提出に関する陳情			
提出者住所氏名	墨田区立川 L			
受理年月日	令和元年6月10日	受理番号	第5号	

要旨

下記事項について、国会及び政府に対し、意見書を提出してください。

- 1 沖縄の民意に反する辺野古新基地の建設を中止すること。
- 2 国防に関係のない普天間基地の運用を停止すること。
- 3 米軍基地の負担と安全保障について、沖縄のみならず日本全国が議論に加わる
こと。

(理由)

沖縄の人々が選挙や住民投票で何度民意を示しても、国が無視するという状況は正常でしょうか。この有様は「主権在民」を記した日本国憲法をないがしろにしており、国が地方自治を一方的に無力化してしまい、勝手に決めた物事を何でも進めることができるということです。このような横暴を、同じ地方自治体である墨田区が座視するだけでいいのでしょうか。

そもそも、米軍海兵隊の基地である普天間基地は国防に関係なく、辺野古の海を埋め立てたところで、マヨネーズ並みの軟弱地盤の上に造るという新基地は機能するはずがありません。また、辺野古の新基地は「普天間基地の返還要件」を満たさないため存在意義もなく、ただ米軍基地を増やすだけになります。このような意義なき基地が造られてはならないのです。本年2月の県民投票では投票総数の7割が基地の建設反対を示したにも係わらず、国はいまだに工事を続けており、実現性の乏しい基地建設に躍起になっています。

もし、日米関係の都合で普天間基地の代替地が必要ならば、日本の米軍基地の約7割が集中している沖縄ではなく、日本全国を候補地にすべきではないでしょうか。普天間基地は沖縄にある米軍基地全体からすると「ごく一部」に過ぎず、最大の規模を誇る嘉手納基地をはじめ、諸所の米軍施設は残ります。沖縄の人々は「ごく一部」の負担を望んでいるだけなのです。ただ、その「ごく一部」である普天間基地は、かつての宜野湾市街をさん奪する形で造られており、現在は街のど真ん中の平地を基地が占拠している状態で、米軍機からの落下物が市民生活を脅かし、非常に危険であることから、速やかな対応が望まれています。

以上の趣旨をご理解の上、上記事項の実現をお願いいたします。

以上